

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	4471200503
法人名	社会福祉法人 偕生会
事業所名	グループホーム あさち偕生園
訪問調査日	平成21年 8月20日
評価確定日	平成21年10月14日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4 4 7 1 2 0 0 5 0 3
法人名	社会福祉法人偕生会
事業所名	グループホーム あさぢ偕生園
所在地	豊後大野市朝地町朝地889番地の2 (電 話) 0974-72-0177

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年8月20日	評価確定日	平成21年10月14日

## 【情報提供票より】 (平成21年 8月 5日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成18年 3月28日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	8.3 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての2階部分
------	-------------------------

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	6,990 円	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

## (4)利用者の概要 (平成21年 8月 5日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	0 名	要介護2	2 名			
要介護3	4 名	要介護4	2 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	87 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	あさじクリニック 児玉医院 アルファー歯科
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 JRの駅が近く、国道沿いの利便が良い場所に立地している。建物の内部は静かで、中央吹き抜けから明るい光が差し込み、住み慣れた地域の風景が全ての居室から望むことができる。
- 2 市の保健・福祉の関係者と協力体制ができており、様々な取り組みも実践している。また、地域のボランティアの受け入れもマイルポイント制度を導入するなど独自の工夫を行っている。
- 3 職員のチームワークが良く、理念にもある笑顔のあるケアを実践している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回の評価結果は法人の理事長や他の事業所とも共有している。評価終了後結果について全職員で話し合っている。改善点は改善シートを作成し、災害時の食料や毛布の備蓄について、また、職員の入れ替わりを極力少なくするように、人事異動への配慮など具体的に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	今回の評価に際しては、主任、看護師と話し合いながら管理者が取りまとめて作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議メンバーからの「火災の夜間出動訓練の時に、地元消防団の方面隊長の指導を受けたらどうか」という意見をもとに、指導を依頼して実施するなどの取り組みを行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	グループホーム便りに担当者の手紙を添えて年4回発行、法人全体の広報誌を3ヶ月毎に発行している。面会時には近況報告と共に金銭出納の報告を行い確認印をもらっている。また、年1回家族参加でバス旅行を行い、終了時に家族だけの意見交換会の実施や意見箱を設置して意見・要望を取り入れている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	町内の行事や保育園、小・中学校の運動会へ参加している。地域のスーパー、喫茶店、美容院を利用している。地域の方が自家製の野菜を持って来てくれる。また、地域のボランティアの受け入れも積極的に行っている。ボランティアに参加するごとに、マイルポイント(商品や介護サービスと交換できる)が貯まる独自の制度を作っている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者がたたき台を作り、職員と一緒にまとめて作成し、「笑顔・気付き・地域・環境を生かす」を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をわかりやすい場所に掲示し、年度初めや全体会議、勉強会の際に理念の共有を図っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の行事や保育園、小・中学校の運動会へ参加している。地域のスーパー、喫茶店、美容院を利用している。地域の方が自家製の野菜を持って来てくれる。また、地域のボランティアの受け入れも積極的に行っており、ボランティア参加ごとに、マイルポイント(商品や介護サービスと交換できる)が貯まる独自の制度を作っている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は法人の理事長や他の事業所とも共有している。評価終了後結果について全職員で話し合い、改善点は改善シートを作成して取り組んでいる。今回の評価に際しては、主任、看護師と話し合いながら管理者が取りまとめて作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議メンバーの「火災の夜間出動訓練の時に、地元消防団の方面隊長の指導を受けたらどうか」という意見をもとに、指導を依頼して実施するなどの取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の委託事業「いきいきスマイル教室」の実施、年3回開催の介護教室では、園長自らオリジナルのシナリオを作成して職員で認知症の介護劇を披露するなど積極的な取り組みを行っている。今年度は初めて「ふるさと振興祭」への参加も予定している。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	グループホーム便りに担当者の手紙を添えて年4回発行、法人全体の広報誌を3ヶ月毎に発行している。面会時には近況報告と共に金銭出納の報告を行い、確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族参加でバス旅行を行い、終了時に家族だけの意見交換会の実施や意見箱を設置して意見・要望を取り入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体の定期異動が年1回あるが、外部評価を参考にするなどして理事長の理解のもと、グループホームの異動はできる限り最小限(今年度は1名)に抑えるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修をはじめ、内部研修や新人研修・介護福祉士の受験対策の学習会など職員の段階に応じた育成も行っている。外部研修は職員の希望を聞きながら段階に応じて参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県老人福祉施設協議会のグループホーム情報交換会で職員の交換研修の実施などを行い、朝地地域事業所連絡会(地域のグループホーム4事業所参加)では2ヶ月毎に情報交換会を開催している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用予定者や家族は事前に施設見学をしたり、職員が自宅訪問するなどしている。また、自主事業のナイト利用を通じて馴染みの関係作りも行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作りや漬物、昔ながらのおやつなど過去の経験を活かして職員に教えてくれる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全利用者・職員参加で毎月「寄り合い会」を開催して、利用者の希望や意見を聞き取っている。利用者毎の日々の生活で気付いた事を「私の思いの言葉」に記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	園長が作成した案を基に、利用者、家族、担当職員の意見を聞きながら主任が取りまとめて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全職員参加のグループホーム会議で毎月モニタリングを行いながら、定期的に見直しを行っている。状態変化の場合は随時の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの理・美容院の利用や、個別の買物、墓参り、受診支援など利用者や家族の希望や状況に添った支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望で決めている。年1回の健康診断の実施や必要に応じて専門医への受診支援や往診などの対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本は看取りをしない方針であり、利用者・家族への説明と職員間の共有もできている。その都度、医師・家族・職員などと話し合いながら、できる限り利用者や家族の希望に添えるように対応しているため、実際は希望により看取りを行ったこともある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録物などは利用者や外部者が見えない場所に保管している。また、職員が各自で毎年行う「自己評価」の項目に言葉遣いなどの接遇が含まれており、自身の振り返りを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り今までの各自のペースで生活できるように、夜眠りにくい方を見守りしたり、朝遅く起きる方には朝食時間をずらすなどしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど調理の下ごしらえや、配膳・後片付けなど、各自の力に応じて行っている。また、おやつは利用者に聞きながら昔馴染みのやせうま・お好み焼きなど職員と一緒に作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は毎日もうけているものの、1日おおむね3名の入浴としているため、2～3日に1回のペースになっている。	○	ホーム側の都合での支援にならないように、できるかぎり利用者の希望や習慣に添った対応が望まれる。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や力を活かして、野菜作りや園芸の指導、プランターの水やり、雑巾縫い、洗濯物たたみ、新聞たたみ、来所した園児達への挨拶などを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	建物1階の吹き抜けにある池や、広い屋上を散歩したりしている。また、月2・3回地域にある喫茶店へも行っている。個人の希望に応じてその都度、買い物や理・美容院への支援などもしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、グループホームは建物の2階であるが、エレベーターも自由に利用できる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難誘導訓練を毎月行い、避難経路を習慣化できるようにしている。今年度は夜間出動訓練を実施しており、地域住民も10名参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が1日1600kcalの献立を作成し、食事と水分量は記録している。また、食欲が低下している方へはゼリーなどの調理の工夫や好物の献立にするなど個別の対応をしている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物中央に吹き抜けがあり、廊下や食堂ホールには自然光が入りとても明るい。吹き抜けに面した窓から山帽子や1階の池に泳ぐ魚が見られ、非常に開放感があり、建物の中にいながら季節を感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての居室から馴染みのある緑豊かな地域の景色を眺めることができる。また、家族の写真や使い慣れた足踏みオルガンなどが置かれている。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム あさぢ偕生園
所在地 (県・市町村名)	大分県豊後大野市朝地町朝地889番地2
記入者名 (管理者)	安東 栄子
記入日	平成 21 年 8 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「笑顔、気づき、地域、環境を生かす」を理念としている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	年度初めに法人とあさち偕生園の取り組みを話し合っている。グループホーム全体会議やあさち施設での勉強会などで理念の共有をしている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族等の面会時や介護教室、施設見学等で利用者の行事内容や事業の目的、理念等話している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	介護教室、夕涼み会に案内を出し参加を頂いている。広報誌の配布、野菜やおやつ等頂いている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内でのイベントや保育園、小、中学校の運動会等に参加している。地域のスーパーでの買い物、喫茶店の利用や理容、美容室を利用している。昨年に引き続きボランティアにはポイントが貯まるマイルポイント制度を行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域で食事に困っている方へ配食サービスをしている。また介護教室を年3回実施している。運営推進会議で各団体の情報の行事に積極的に参加している。(ボランティア連絡協議会の事業への参加)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を理事長に報告し、法人内の事業所にも波及している。評価終了後全職員ですべての項目を話し合い改善できる点から実施している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の生活の様子、行事等を報告している。運営推進会議で「火災の夜間出動訓練の時に、地元消防団の方面隊長の指導を受けたらどうか」と意見が出され、指導を受けるようになった。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の委託事業「いきいきスマイル教室」の実施や朝地地域事業所連絡会で2ヶ月毎に情報交換会を開催している。町内の各事業所のPRを含め、今年度初めて「ふるさと振興祭」に参加する運びになっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	8月29日に夜間園内研修で全職員が受講している。必要な利用者は安心サポートを利用し支援を受けているので職員も理解を深めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	8月29日に人権学習会を法人が計画し、全職員が受講している。その中で高齢者虐待防止法関連法について学び、虐待防止に努めている。法人内で委員会を設置している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族へ重要事項説明を行い不安な面、生活暦等の情報交換をしている。広報誌を渡し行事等説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月「寄り合い会」にて利用者全員と管理者と職員が参加して意見、不満、苦情を言って頂いている。その結果を運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月毎に法人の広報誌や年4回の担当者の手紙を添えたグループホームだよりの発行や、面会時に近況、金銭出納報告と認め印をもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。また家族参加のバス旅行終了時に家族だけでの意見交換を行い意見や要望を取り入れている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や年1回の個別面談を実施し、意見や提案を聞いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員会議等で、要望に柔軟な対応が出来るよう、話し合いを持っている。また、勤務の調整にも職員同士が話し合っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体の定期異動が年1回ある。利用者への影響を考慮し、できる限り異動を最小限にとどめるよう配慮しているが、1名の職員がデイサービスへ異動となりグループホームに1名職員を新規配属した。新規配属された職員には、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修は外部の講師を依頼し、年3回実施した。内部では看護師の指導にて「感染症について」実技を入れた研修を実施。その他は全て事例検討会を開いている。また介護福祉士の受験対策として、園長が講師で4回学習会を実施。外部研修へは各職員に応じて希望も汲み取り参加している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県老人福祉施設協議会主催のグループホーム情報交換会や、同業者も加入している朝地保健福祉関係者の情報交換会へ参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員互助会主催の年2～3回のレクリエーションの参加やサークル活動でヨガを行ったり、テニス、野球、ミニバレーなどのスポーツクラブに参加。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	理解できないことや、処遇に関する事で相談に応じている。資格取得については、助成金や出張扱い等勧めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	帰宅願望、家族のこと、健康についての相談はゆっくり聞いている。職員もコミュニケーション技術の向上に努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の不安や、入所後の不安に電話で生活の様子を度々伝えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	デイサービス利用や自主事業、ショートステイ事業を説明しいつでも利用できることを伝えている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前には本人、家族と共に見学に来たり、職員が自宅を訪問するなどしている。また、併設のデイサービス利用者の場合は、自主事業であるナイト利用をし、馴染みの関係作りをしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、フキの皮むき、昔ながらのおやつ作り、野菜の育て方などを過去の経験を活かして教えてくれる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	1週間に1回は刺身を食いたいと言う方がいて、スーパーに買い物へ行くなど、「寄り合い会や本人の希望」等家族にも伝え一緒に利用者を支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の夫がデイサービスを週3回利用し、その度に面会され夫婦の絆を深めている。長男夫婦も喜ばれ、利用者が生き生きした姿に変わられたことにびっくりされている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人、近隣の人、同僚、同級生の面会など支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	行事、食事、レクリエーションの参加の呼びかけを利用者にもお願いしている。プライドや負けん気の強い方とのトラブルを早くキャッチし協力し合える関係作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	広報を送付したりと関係を継続している。家族の方から野菜やおやつを頂き利用者の皆さんに差し上げている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全利用者と全職員参加の「寄り合い会」で利用者の希望や意見を交換している。また、日々の生活の中からきづく「私の思いの言葉」を記録している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方より話を聞かせて頂いたり、何気ない普段の会話から生活歴を聞いたりして把握している。入所時の聞き取りシートにサービス利用の経過等を記載しているので、全員の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	デイサービスの利用者と自ら進んで仲間に入っている方、リビングにいて常に職員から見守られていると言う安心感を持っている方など身体や精神の変化など日々記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は「寄り合い会」などで、本人の思いを把握し、園長が作った案をもとに、主任が担当職員や家族の意見を聞くなどして作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	年2回の介護計画の見直しを行っている。2ヶ月に1回のペースで2、3名を事例検討会で検討している。また1月に1回程度モニタリングをしている。状態の変化時にはその都度対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等個別のケース記録に記録している。モニタリングや事例検討を行い介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの利用者と交流したり、歯科受診、理美容、個人的な買い物、墓参りなど本人や家族の希望で柔軟な対応をしている。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、ボランティア、消防、小・中学校、保育園等と協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	2ヶ月に1回行われる、朝地町地域連絡協議会に参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	居宅支援事業所より包括支援センターの介護予防プランや研修会等で協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、かかりつけ医が決められている。必要に応じて往診や年1回健康診断を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>家族の考え方に沿ってグループホームで最後まで希望すれば家族の支援をお願いし、最後まで介護していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>ADLの低下、寝たきりになり特養への住み替えなど考えられるので情報交換を大切にしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴や排泄チェック表等の記録物は利用者の目の触れない場所へ保管するなどの配慮をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	できる限りこれまでの生活習慣を尊重し、夜眠れない人が歩くのを見守ったり、朝食時間を遅くするなどの対応をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にしている。職員からの声かけや誘いで行動している方が多い。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院や利用に毎月行っている方もいる。日常の生活で洗面、整容、衣類選び等一緒に行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやすじとり、配膳や片付けなど手伝ってもらっている。おやつは手作りを職員と一緒に昔ながらのじり焼きやせうま、ホットケーキ、お好み焼き等作っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物はお茶、コーヒー、牛乳を準備している。お祝い等はビール、ジュース等出している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表に記録して一人ひとりに声かけ等を行い対応している。またサインを読み取りトイレへ誘導している。自分でトイレを希望する方もいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望やペースに併せた支援をしながら、毎日入浴ができる等の対応をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方や19時頃から休まれる方もいる。東棟の部屋はカーテンの使い方をこまめにしている。夜間や早朝に起きて廊下に出てくる方には時間や夜の様子を伝えると再度休む方が多い。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえ、園芸、雑巾縫い、洗濯物たたみ、新聞たたみ、オルガンを弾くなど生活歴を活かした支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	美容、理容室の利用、買い物、喫茶、軽食等にお財布を渡し、ご自分で支払えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	墓参り、買い物、理美容利用など、個人の希望にそった対応はできている。希望のない人などは週1回1階のデイホールやピロティーや屋上に散歩に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回家族利用者とのふれあいバスツアーを実施。家族が日中家に連れて帰っているケースもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人がワーカー室で家族へ電話をかけている。ご本人が、賀状や書中見舞いを出せるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された方は居室や喫茶室をいつでも使っていただき、お話しが弾んでいる。またリビングや廊下等で一緒に話している様子がよく伺える。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の言動や行動でキャッチした時対応している。法人の身体拘束委員会に参加している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物2階にグループホームがあり、日中はエレベーターは自由に使え、鍵をかけないケアへ向けた取り組みをしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認表に2時間ごとにチェックしている。表は利用者の目の届かない所に置いている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や包丁は利用者が触れない位置にしまうようになっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	避難訓練を毎月実施。転倒防止に歩行の付き添いや和室に上がる時の介助をしている。所在確認を定時に実施。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	平成19年に日赤指導員による救急法の研修会を行っている。	○	定期的実施したい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月避難訓練を実施し、避難経路を習慣付けている。今年度、夜間出動訓練を実施。地域の方10名が参加。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に説明をしている。また面会時に生活の様子などを話し、家族と共有し確認・同意を頂いている。一人ひとりの生活の様子や癖等を職員全員が把握し共有し事故を未然に防いでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師に連絡し対応している。体調の急変時の対応は全職員がチームで行動している。上司にも即報告。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の記録を一本化している。ケース記録に健康状態をわかりやすく記録している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食に芋ご飯を取り入れている。おやつにふかし芋やヨーグルトを作り果物とアレンジして食べて頂いている。散歩や体操、レクリエーションを毎日実施。排泄チェック表にて一人ひとりを把握している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがい歯磨き支援を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成している。(1日1600kcal) 食事、水分量の記録をしている。食欲のなくなった方の対応で、摂食介助や好物を見つけ支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを各自へ配布し、看護師による研修会に全職員が参加している。各玄関や職員出入口に手指消毒液を置いて使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等は洗浄機、乾燥機、室内滅菌消毒をしている。厨房内の清掃、食材の整理整頓は常に気を配っている。米、野菜は近くの生産者より納めてもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節のお花を活けているので、近所の方よりお花を頂く機会が多い。プランターにも近所の方からの花の苗を頂いたり、野菜を園周辺に植えている。駐車上から玄関が近いので来客が解り易く、職員が出迎えることが多い。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に面した廊下が囲む吹き抜けには、山帽子が植えてあり、ベランダには利用者とともに栽培している野菜のプランターがあり、採れ立て野菜を皆さんで召し上がったりと生活感や季節感を感じとって頂いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ室を2箇所にして居場所を選べる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての居室から住み慣れた地域の風景が望め、足踏みオルガンや孫が撮影し、大きく引き伸ばした写真を飾るなど、自分の部屋作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓の開閉、換気、温度調節は利用者の状況に応じてこまめに行なっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行を安心して行なう為に手すりの活用、付き添いなどを行なっている。廊下は歩行を妨げないように物を置かない。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にトイレがあり安心して使用している。室内で排泄の失敗をしても下着などバケツに入れる。家での生活をそのまま続けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ、屋上、1階ピロティでの外気浴や気分転換に誘っている。ベランダに季節の花や野菜を植え水遣りがいつでもできるようにジョウロやバケツに水を入れて誰でもすぐやれるようにしてある。会話も広がっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

①笑顔で優しく関わり利用者の体調・行動の変化に早く気づく事に力を入れている。②利用者の要望に受容し、傾聴し常に心の中に答えられるよう努めている。